

# 家畜衛生だより

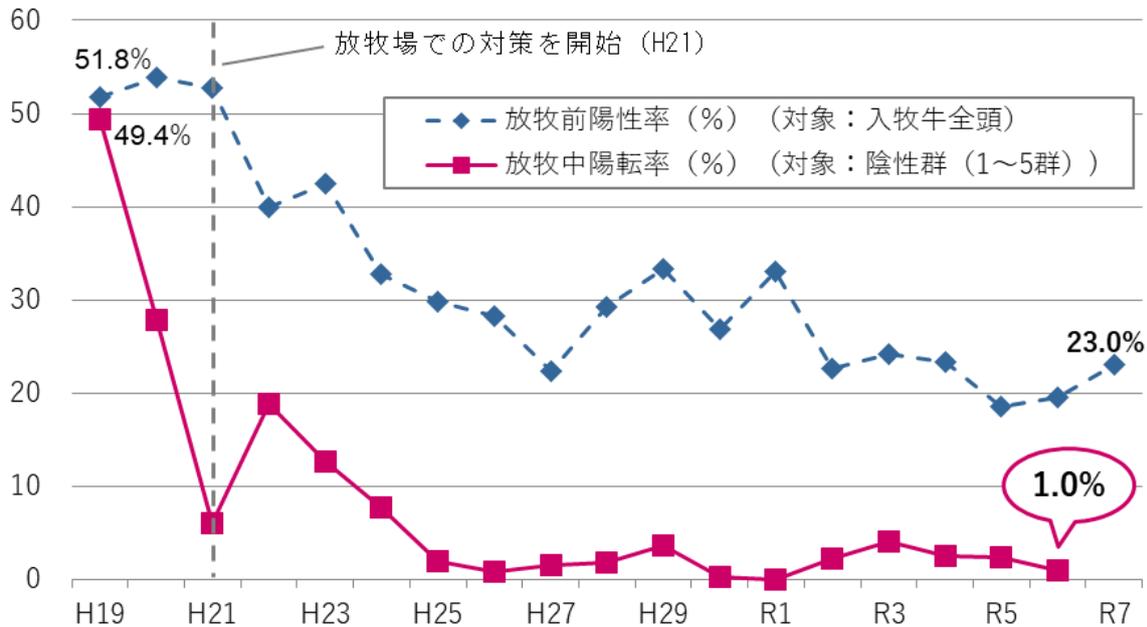
令和7年5月発行 No.9  
 庄内家畜保健衛生所  
 庄内地区家畜畜産物衛生指導協会  
 TEL 0235(68)2151  
 FAX 0235(66)2466

## 令和7年度 放牧事前検査の結果について

	牛伝染性リンパ腫	ピロプラズマ症	ヨーネ病
陽性率	23.0% (28/122)	2.5% (3/122)	全頭陰性 (0/121※)
内 訳	乳牛 0% (0/14) 肉牛 25.9% (28/108)	乳牛 0% (0/14) 肉牛 2.8% (3/108)	乳牛 0% (0/14) 肉牛 0% (0/108)

※6か月齢未満のため、全122頭のうち1頭実施せず

### 【放牧場における牛伝染性リンパ腫感染防止対策の効果（令和6年度）】



吸血昆虫対策や抗体陽性牛と陰性牛の分離放牧等の感染防止対策の実施により（平成21年～）、放牧中の感染率は低値で推移しています。昨年（令和6年）の放牧中の陽転率は、1.0%でした。引き続き放牧場における感染防止対策にご協力をお願いします。

### 【令和7年度健康検査計画について】

実施月	6月	7月	8月	9月	10月
臨床検査	全頭	全頭	全頭	全頭	全頭
ピロプラズマ症検査	乳牛全頭、 和牛2群10頭 ・他群5頭	乳牛全頭、 和牛2群10頭 ・他群5頭	乳牛全頭、 和牛各群5頭	乳牛全頭、 和牛各群5頭	乳牛全頭、 和牛各群5頭
牛伝染性リンパ腫検査	途中下牧する陰性牛				陰性牛

◎放牧中の健康観察のため、今年度も検査へのご協力をお願いします

# 農場における牛伝染性リンパ腫対策について

国内の牛伝染性リンパ腫は、年々発症頭数が増加し（平成 11 年 169 頭⇒令和 6 年 4,420 頭（農林水産省統計より））、生産現場での被害も増加傾向にあります。放牧場では感染防止対策により感染率を低く維持することができていますが、あわせて農場での対策を実施していくことが重要です。

農場における清浄化には、中長期的な視点に立って、以下の対策を計画的に講じていく必要があります。

- 1) 浸潤状況調査（抗体検査）**：飼養する牛群にどの程度の浸潤しているのか把握する
- 2) 感染防止対策の実施**：吸血昆虫対策・初乳対策・人為的感染防止対策を行う

## 【吸血昆虫対策事例】



媒介昆虫粘着シート



畜舎開口部への防虫ネット設置



畜舎周辺への防虫ネット設置



抗体陽性牛と陰性牛の分離飼育

- 3) 定期的な浸潤状況調査、高リスク牛の判定（遺伝子検査等）**

対策の効果判定や感染源となるリスクの高い牛の順位づけを行い、次の対策へつなげる

牛伝染性リンパ腫対策は、飼養形態や浸潤状況により農場毎に異なりますが、管内では感染予防対策を行ったことにより、清浄化や陽転率ゼロを達成した農場もあります。

県では牛伝染性リンパ腫対策事業として、検査や清浄化への取り組みを支援しています。感染状況を把握するための抗体検査等に興味のある方は、家保までご相談ください。

**庄内家畜保健衛生所：0235-68-2151**